

公民館事業の田んぼの学校は、一年を通じて、われわれの主食である稲を育てていくための全過程を、田植えを行なう前の田んぼの手入れから始まって、収穫されてお米となるまでの過程を体験する学校です。講師は、大ベテランの農家の方。昨年の稲刈りに引き続き、初めての体験をしてまいりましたので、皆様に報告したいと思います。

6月12日(土)快晴の朝、よそう森の田んぼには田んぼの学校の生徒さんであられる、善男善女の皆様が集まっていた。頭には思い思いの日除けの帽子をかぶり、足元は長靴の方、田植え用の足袋の方、裸足の方、ソックスの方と装いは様々ですが、田植えを頑張るといふ気迫が皆様から感じられました。集合時間になったので講師の方から説明と注意がありました。さて、いよいよ田植えの開始です。まず、苗箱を畦まで運び、手ごろな大きさに分割して、田んぼの中に投げ入れていきます。すでに、水田は横を流れる日野用水から水を取り入れて、太陽の光をあびて輝いています。田んぼの中では水と泥に

## よそう森の 田植えに参加して



足をとられて動きにくくなるので、手に持っている苗がなくなつた時に、すぐそばに苗がある状態にするためと理解できました。次に、恐る恐る田んぼの中に入っていきます。ズボット、ヌルツとするだろうなと覚悟はしていましたが、想像以上に足がのめりこんで動かない。たしかに動きにくい。

また、納得。横一線に並ぶように指導の方から、声がかかります。並んでいる人間の足元の田んぼの中に両側の畦に人が立って紐を張っていきます。この紐は、30センチ位の長さの鉄杭に紐がついていて、紐には等間隔に目印のリボンが付けられています。目印のリボン

す。もちろん、植え方も指導がありました。水稲というくらいなのだから、苗を持って、田んぼの水面に力を入れずに軽く入れる程度でも、三日もたてば根はつくのだと教えてくださいました。またまた、納得の私です。こうして、みんなで並んで紐に従って、苗を植え、みんなが植え終わると紐を張りなおして、次の一線に移って田植えをしていく作業がよく理解できました。田植えは人手が要る訳がわかりました。もちろん、中腰での作業です。農家の方のご苦労が身にしみて理解できる一瞬です。なぜ、稲がまっすぐに等間隔に植えられているのかもよくわかりました。この目印の紐にそって、植えているから稲刈りが終わった田んぼは碁盤目のように見えるわけでありました。この作業のことを、「縄を張る」と教えられました。この言葉が転じて、「縄張り争い」と言う言葉の語源になったとも教えられました。国語の勉強にもなりました。

田んぼの学校の皆様の熱気であつというまに田植えは終わりました。皆様お疲れ様でした。とても、勉強になった一日でした。(K・A)

地道な自然保護活動が認められて、2つの団体が、それぞれ表彰されましたので紹介いたします。

### おめでとうございます

**日野の自然を守る会**  
緑化推進運動功労者  
内閣総理大臣表彰

日野の自然を守る会が、緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。

日野の自然を守る会は、市の委託による公園の管理やボランティアによる緑地管理等自然環境の保全に尽力していることが、緑化活動の推進や緑化思想の普及啓発に顕著な功績があったとして、今回の受賞にいたしました。

授賞式は、4月23日(金)に、第4回みどりの式典の席上において行なわれ、日野の自然を守る会から会長の飯島利三氏他5名の方が受賞式に臨まれました。

**浅川勉強会**  
社団法人日本河川協会  
河川功労者表彰

浅川勉強会が、社団法人日本河川協会から河川功労者の表彰を受賞しました。

浅川勉強会は、長年にわたり、浅川流域の自然保護活動を通じて、次世代に豊かな自然を引き継ぐために様々な啓発活動を行なっていることが、社団法人日本河川協会より、河川の自然保護・愛護活動に顕著な功績があったとして、今回の受賞にいたしました。

授賞式は、5月21日(金)に、社団法人日本河川協会の通常総会の席上においておこなわれ浅川勉強会から代表の山本由美子氏他1名の方が受賞式に臨まれました。